

中山間地域におけるアウトドアスポーツ事業の

成功要因に関する研究

～仁淀川アウトドアセンターを事例に～

1250513 真子僚介

指導教員 林 一夫

研究背景

2020年のコロナ禍でアウトドアスポーツが人気となり、高知県の仁淀川も「仁淀ブルー」として注目を集めた。これに伴いアウトドアスポーツ事業が活性化したが、中山間地域ではアクセスの不便さや人材不足が課題となっている。筆者がアルバイトする「仁淀川アウトドアセンター」はこれらを克服し成功しており、本研究ではその成功要因を分析する。

研究目的

仁淀川アウトドアセンターを中山間地域におけるアウトドアスポーツ事業の成功事例として分析し、中山間地域におけるアウトドアスポーツ事業の成功要因を検討する。

研究方法

仁淀川アウトドアセンターの体験者全員が記載する参加申込書の項目の「出身都道府県または国」「年齢」に「施設を知ったきっかけ」「種目の競技経験」のアンケート項目を追加して計4項目を集計した。また、仁淀川アウトドアセンターの社長である古味雄也氏にインタビューをし、運営方針や成功要因を聞き出した。それを踏まえて、分析を行った。

分析結果

仁淀川アウトドアセンターは中山間地域のアウトドアスポーツ事業が抱える、人材確保や効果的な宣伝方法の確立といった課題を克服し、また、課題である繁忙期と閑散期の大きな差というアウトドアスポーツ事業特有の課題も克服した。その手法は運営を初心者向けに特化し、大学生を採用することと、口コミの効果的な活用であった。アクセスの不便さも課題としてあったが、高知県にくる観光客は大半が高知市内に宿泊し、自動車を使うことで1時間程度でアクセスできるため、不便さが軽減されていた。こうした課題解決により、仁淀川アウトドアセンターは体験者数を増加させ、TV取材や実績を手に入れたことがわかった。

考察・結論

本研究では中山間地域におけるアウトドアスポーツ事業の成功要因を検討した。中山間地域でアウトドアスポーツ事業を行うことは自然資源の有効活用や観光産業の開発の観点から中山間地域の発展に大きく寄与できる。一方で人材不足やアクセスの不便さの課題があるため、課題の解決は必要不可欠である。仁淀川アウトドアセンターではこうした課題を克服し、事業の成功を収めている。その手法はアウトドアスポーツ事業をスポーツの体験として捉えず、体験型観光として捉え、従来の競技的なアウトドアスポーツ事業とは違った運営を行った。仁淀川アウトドアセンターが行った、課題解決とアウトドアスポーツ事業の体験型観光化は中山間地域におけるアウトドアスポーツ事業の成功要因であると結論づける。